



中舞鶴の歴史・くらし探検隊 活動ニュース

第6号

発行 平成27年11月15日

編集 中央公民館

舞鶴市字余部下1167

第5回探検

共楽公園とその周辺

「中舞鶴の歴史・くらし探検隊」の第5回「探検」として、10月12日、共楽公園とその周辺を探索しました。桜の名所・共楽公園には、戦前から慰霊の碑が設けられ、また戦後も動物園や遊園地のある家族みんなで楽しめる公園であったことが分かりました。雲門寺の本堂も見学させていただき、鎮守府開設に伴って移転する前の様子も学びました。概要を報告します。



▲誰もが知る桜の名所。家族そろって楽しめる公園

桜の名所、記念碑や海軍墓地も 安寧を願う聖地ここにあり

ミニ動物園があつた付近に整備された水の流れる庭園



共楽公園の建設は明治40年頃から検討されていたが、大正7年に鎮守府司令部の了解を得て、土地買収や開拓工事に着手。数百株の桜の木を植えて開設がかなったとのこと。

公園開設は大正時代



▲シャボン玉発射機で遊ぶ子供たち
(平成27年10月12日)

遊具で遊ぶ子供たち
～昭和40年頃の共楽公園。ミニ動物園や池もあり、家族みんなで気軽に出かけたそう。 (写真左奥には旧鎮守府司令部庁舎が見える)



平和を願う記念碑の数々

桜の名所・共楽公園には、数多くの慰霊や記念の碑がある。昨年7月には舞鶴空襲（昭和20年7月）の慰霊碑も建立されるなど、今も、恒久平和と鎮魂の“聖地”だ。



展望台からの眺め



東方向の眺望。今も変わらぬビューポイント

舞鶴空襲学徒犠牲者慰霊碑

平成26年に建立された舞鶴空襲学徒犠牲者慰霊碑（写真左）。昭和20年7月29日の空襲で亡くなった学徒や引率教員らを慰霊する。



山頂広場の鎮魂碑

大正8年、海軍工廠の殉職者を慰霊する「招魂碑」として建立されたが、太平洋戦争中に青銅製の碑が供出され台座だけに。昭和53年に、舞鶴空襲犠牲者や工廠の殉職者などの慰霊の願いを結集し、新たな鎮魂碑として建立された。



鎮魂碑の全景（写真上）。昭和53年に建立された鎮魂碑（同右上）。右は献花台



東郷元帥揮毫の忠魂碑



▲明治42年に葛山に建立された後、昭和3年に現在地に移転たとされる

アロハ桜



戦後間もなく舞鶴に駐留したハワイ日系2世が送ったとされるアロハ桜。写真左は日系2世を偲ぶ「友好平和サクラ碑」（昭和55年建立）。今年4月2日の花の様子（写真上）

近畿自然歩道



▲近畿自然歩道「舞鶴湾をめぐる五老ヶ岳のみち」の標識。共楽公園から五老岳に続くハイキングコースの起点だ

雲門寺

海を見下ろす風光明媚な余部の里(現在の余部宿舎付近)にあった雲門寺は、鎮守府建設に伴い、明治28年現在地に移転。普明国師開山の由緒ある寺だ。



▲開山普明国師の肖像画(南北朝期)を前に、第24代住職から説明を受ける(27年10月12日)。本尊は地藏菩薩



▲臨済宗天龍寺派の由緒ある寺。山門は京都の醍醐寺から譲り受けたとされる市指定文化財)



▲本堂に通じる廊下には中舞鶴の歴史を語る写真がいっぱい



▲山号「神龍山」にちなみ描かれた龍の襖絵



本堂の横にある、とても大きな手水鉢。ロードローラーを譲り受け加工したものと(先々代の住職)

歴代住職の墓も移転



▲共楽公園と海軍墓地の間にある、雲門寺歴代住職の墓。鎮守府設置に伴い移転。

八十八か所のお地藏さん



共楽公園一帯にひっそり佇むお地藏さん。以前は雲門寺で観音講が行われていたとのこと

海軍墓地

明治30年代に鎮守府が設置。戦後も新たな
記念碑の建立が続く。

海軍墓地は上段と下段
の2段造成。戦後舞鶴
市に移管。現在7基の
合葬碑と14基の個人
碑がある



手前左が「大東亜戦争戦
没者之碑(平成元年建立)、
右は尼港殉職海軍将卒
記念碑(大正10年建立、
昭和27年修復)



案内板に取り付
けられたオル
ゴール(写真上)。
天然の美「軍
艦マーチ」等
の曲が流れる。

▲墓地は2段に分かれているが、いず
れにも詳しい案内板がある

【お願い】掲載内容については、今後の探検活動の中で、追記・
修正等を行いたいと考えております。情報提供をお願いします。

第5回探検の感想

- ▽60年前ごろには、五老岳と共楽公園をロープウエイで結ぶ構想があり、新聞に載ったこともある。
- ▽共楽公園は桜と共に紅葉の名所としても素敵だ。
- ▽桜の名所に、これだけたくさんのお碑があるとは驚き。
- ▽久しぶりの共楽公園で子どものころ父に連れられてきたことをいっばい思い出した。
- ▽共楽公園は中舞鶴の財産。晴天時の紅葉は素晴らしい。ぜひ訪ねてほしい。
- ▽共楽公園には季節を変えて行ってみたい。
- ▽共楽公園は近場でありながら、行く機会がなかった。紅葉や桜の季節にぜひとも行ってみたい
- ▽雲門寺では和尚さんの話が直接聞けて、先々代の住職にかわいがってもらったことを思い出した。
- ▽雲門寺では、水晶の玉を観たかった。第3日曜日の座禅会に参加したい。
- ▽雲門寺の座禅会に先月に参加した。朝の時間帯の庭はとてもきれい。多くの方に勧めしたい。
- ▽雲門寺の檀家ではあるが、今回訪ねてみて、親しみのもてる住職であることが分かった。
- ▽共楽公園は地元にながら知らないことだらけだ。雲門寺の観音堂を初めて見学させてもらった。
- ▽海軍墓地を興味深く見学。墓地が2段になっていることを知らなかった。
- ▽海軍墓地の案内板にオルゴールが取り付けられていた。その気づかいに感動した。
- ▽海軍墓地を訪ね、この人たちの犠牲があったからこそ今があることを改めて感じた。
- ▽海軍墓地では戦争の悲惨さを伝える仕組みがあればもっとよいと思った。→墓地と慰霊の碑、アロハ桜などの国際交流、それに今も続く記念植樹など、国際平和につながる未来志向の取り組みがある。
- ▽八十八箇所地蔵さん、全部訪ねてみたい。
- ▽昔の中舞鶴駅前写真を当時と同じアングルで撮影しようとしたが、木々が茂りできなかった。

中舞鶴の地名を考える

～餘部の古代 その⑤～

古代の中舞鶴は餘部郷と呼ばれていた。従って、この地域の最有力部族は餘部＝海部家の民であった。つまり現在の餘部上と餘部下以外の長浜、和田は餘部ができる以前からあったことになる。そして長浜はナーガ浜で蛇族を表し、和田は聞けわたつみの声のわだで海人族を表す。雁又同様これら海岸線に最初に地名を刻印したのは縄文後期から弥生初期と考えられる。和田に残る小字名、長江、中田、たね(漢字不明)等々は明らかに竜蛇神族が最初にこの地に渡来してきたことを証明している。加津良にはエベスという小地名が残っている。旧五つ森村にも、えびす岬がある。これは竜蛇神族の中にエビス人がいた証であろう。

余談になるが、私の井本姓は舞鶴では主に八田に多い。八田とは秦氏の一族の名称であるから私の出自はユダヤ系エビス人ではないかと考えている。以上中舞鶴の地名を考えてきたが、この地域は圧倒的に5族のうち蛇族が定住した地域であることが判明した。では、舞鶴全体ではどうだったのであろうか？やはり他の地域でも蛇族が優勢であったのであろうか？和名抄では古代の舞鶴は加佐郡と記してある。KASAIはSAKAの倒置法でサカ族のことであるから、舞鶴全体の支配部族は牛族であった。そしてその中心地は加佐であったことになる。現在の行政区域とは大幅に相違している。機会があればぜひこの辺の事情をく舞鶴の地名を考える>コラムで投稿したいと考えている次第です。

(井本精一)